



和(輪)のまちだより

発行者

2025年(令和7年)1月1日
長野市権堂町2201-20 権堂イーストプラザ ND1階
第四地区住民自治協議会会長
電話 026-262-1365
有限会社 長野プリントサービス

印 刷 発 行 部 数

1,753部

2024.12.1 現在 第四地区現況 ()前年比
世帯数／2,375戸(100.0%) ±0
人口／2,664人(98.2%) -49人
世帯数／令和5年度世帯数調査による
人口／長野市企画課統計資料による

☆第四地区は「諏訪町」「西後町」「県町」「南県町」「妻科」「新田町」の6町で構成されています☆

諏訪町、西後町、県町、南県町、妻科、新田町の皆さん



今年も良い年になりますよう、第四地区住民自治協議会評議委員一同頑張ります。住民自治協議会の事業は、地域の皆さまのご協力なくしては成り立ちません。

今年も住民の皆さまの各種行事への積極的なご参加をお待ちしております。



第四地区住民自治協議会
新年のご挨拶

横田会長

新年あけましておめでとうございます

「活性化を目指す市街地ほど激しい変化が起き続ける」と言っています。言い換えれば「変化がなければ地域の活性化は出来ない」とも言えます。第四地区もその例に違わず、これまで長野市の中でも最も大きな変化を続けながら活性化が図られてきました。

今後も新田町交差点付近の再整備計画に加え、県庁周辺整備計画の検討も始まり近々その具体的骨子案がまとまる等大きく変化していくことは確実です。私たちも活性化の源である「変化し続ける地域」を容認し自分達も変わつていく必要があります。

この「変化と活性化の関係」は、地域活動に限った話ではなく、個人にとっても同じことが言えます。私個人に当てはめてみても、歳を重ねるに連れ確実に変化しているはずです。しかし歳をとると積極的に自分の姿を映す“鏡”を見なくなり、「変化している自分の姿」が見えないまま自己中心的な行動することが増え、家族や周りの人たちに迷惑をかける様になってしまっているはずです。

住民自治協議会の活動も10年以上の歳を重ねることになり、変化している自己の姿を見ないままその活動を続けているのではないかと反省しています。

年初にあたり、今年の活動の抱負や夢を語ることも大切ですが、もう一度住民自治協議会設立の精神に立ち戻り、変化している住民の皆さまの生活にとって、今何が大切かを知るために「自らを申し出す“鏡”に向き合い見直す」機会ととらえ、長野市や国が目指す次世代モデル地区としてふさわしい第四地区とは何かを考え、今後の活動につなげたいと思っています。

最後に、本年も皆さまのご協力を願い申し上げます。

安全と環境の施設見学会

31名の参加で熱心に見学

去る10月9日(水)、山梨県中央市にある「山梨県立防災センター」と諏訪郡富士見町の「カゴメ野菜ファーム富士見」を31名の参加者で見学をしました。

防災センターでは、災害救助の経験が豊富な説明員からリアルな話を聞くことができました。「備蓄食品は『白米と乾燥わかめ』さえあれば、わかめご飯が簡単にできて、数日間ならこれで十分」、「黒いビニール袋と、ポリバケツ、ティッシュだけあれば誰でも簡単に簡易トイレはできる」、「大地震に襲われた時は、搖れが収まつたら、ただちに屋外に逃げるべし」など、実体験に基づいた具体的な話しに参加者は感銘を受け、早速実践しようと意を強くしました。

この後向かった野菜ファームでは機械化された近代的な工場で1日に15万個も製造する野菜ジュースができるところを見学し、防災と環境保全の意識の高揚を感じ取った一日でした。



写真左・中上／災害に対する心構え等を聞く参加者、写真中下／黒ビニール袋とポリバケツで作る簡易トイレ、写真右／カゴメファームで説明を聞く参加者

今年も実施 6町合同防災訓練



上、左、左下／AEDの扱い方を熱心に聞く参加者
下右／的に向かって消火器を噴射 下左／組み立てられた簡易トイレ

去る10月19日(土)9時30分から、後町ホールで合同防災訓練を実施しました。

消火器やAEDの取り扱いを小さいお子さんから高齢の方まで約90名の多くの方が消防署の職員から手ほどきを受けました。

今年は、万が一大きな災害に見舞われて、避難所が開設された際に、上下水道が不通になつても使える簡易トイレを組み立てました。

この簡易トイレは後町ホールに併設されている防災備蓄倉庫に2基常備しています。この他にも非常用食料、飲用水、簡易発電機、浄水機、炊き出しセットなど、大きな災害が発生して後町ホールが避難所として開設されたときのための物が備蓄されています。この倉庫の鍵は第四地区の6町の区長が保管しています。

防災備蓄倉庫は後町ホール以外に市内全域に55か所あり、災害発生時の緊急的に必要なものを備蓄しています。

75歳以上の方の いきいき交流会開催

10月22日(火)の10時30分から県町の犀北館ホテルで75歳以上の方を対象にした「いきいき交流会」が開催されました。今年も90名もの多くの方に参加頂きました。

初めに健康と特殊詐欺について市の国保高齢者医療課とコンフォートにしつるがの担当者からお話し頂きました。常に現場で活躍している方の分かり易く、具体的なお話しに大きく傾きながら聞く方も多く、非常にためになつた講話でした。

続いて、うたごえの出前やコンサート活動を精力的に行っている「神谷ありこさん」のステージで、昭和歌謡のオンパレードで懐かしい歌を大声で歌い、最後には男性7名がステージに上がって、くちなちの花を恥ずかしそうに歌いました。

アトラクションの後はお楽しみの昼食会が開かれ、同席の人どうしが和気あいあいとした雰囲気で昼食を楽しみました。

最後にお土産の卯月堂のそばの華を嬉しそうに持ち帰り、「来年まで元気にしていて、来年も必ず参加するよと」言いながら帰路についていました。



写真上段左／昼食をとる参加者、中段左／恥ずかしそうにくちなちの花を歌う男性陣、中段右／神谷さんの「拍手ではなく『イエーイ！』と言って手を挙げて」に合わせて手を挙げる参加者、下段左／昭和歌謡を熱唱する神谷ありこさん、下段右／国保高齢者医療課の職員の講話を熱心に聞く参加者



新潟県に役員研修旅行

去る11月12日(火)から1泊の行程で、新潟県の燕市、長岡市、小千谷市などに役員研修旅行に行つてまいりました。

この研修旅行は、一年間の役員の慰労を兼ね、見識を広めるために行つたもので、今回、サトウ食品のパックご飯を一日に20万食も製造する工場の見学、燕市産業史料館で純銅の槌目入れ体験、長岡花火館ドームシアターで花火鑑賞、小千谷市の錦鯉の里で錦鯉の知識の習得など、多彩な見学、体験をしました。

ここで得た見識と養った英気を今後の住自協活動に生かして行きたいものです。



上／完全自動化のご飯パックの製造工場
下／研修旅行の参加者

第四地区を善白鉄道という鉄道が走っていたこと 知っていますか？



60年前までホーム上に残っていた木造駅舎

市営プール
山王小学校

左／妻科駅があつたと思われる場所（県庁からすき亭、うるおい館方面への道路上）

左下／裾花川に架かる善白鉄道の橋梁の橋台、この後幾つかのトンネルを通って今はなき善光寺温泉方面に向かつた

1936年(昭和11年)から1944年(昭和19年)までのわずか8年間、今の長野駅の安茂里駅寄りにあった「南長野駅」と、今は無き善光寺温泉の先の「裾花口駅」という駅までの20km余りを、善白(ゼンパク)鉄道という非電化鉄道が走っていました。

始点の南長野駅を出ると、山王駅(現在の山王小学校辺り)、妻科駅(現在の県庁の西150m程のところ)、現在の妻科白岩通り、信濃善光寺駅(現在の裾花台遊園地付近)を経て、幾つかのトンネルを抜け、茂菅駅から善光寺温泉駅、裾花口駅までの7駅間は開通しました。しかし当初計画の白馬までの開通には遠く及ばず、戦況の悪化もあって僅か8年でその役目を終えてしまいました。

戦前、長商の生徒だった筆者の父親は「いつも2人か3人しか乗っていなかったため、乗車定員42人をもじって『しじゅう(始終)二人乗り』って揶揄していた」と言っていましたが、妻科駅の一つ先の信濃善光寺駅は善光寺参拝の最寄り駅となつたため、多くの参拝客は信濃善光寺駅から桜枝町通りを通って善光寺に向かうため、往時の桜枝町通りはさながら善光寺の西参道のように賑わいだつそうです。

今は列車が走っていた名残は殆どなくなってしまいましたが、それでもかつての沿線を辿ると、写真のような当時線路だった痕跡を幾つか見つけることができます。暖かくなつたら、沿線だった所を散策してみませんか？第四地区的片隅を鉄道が走っていたことを知る人も少なくなつてしましましたが、80年以上前の景色を思い浮かべて郷愁に浸るのもいいかも知れませんね。

健康リゾート＆フィットネス
スパ・サルーテ

NEW

チャレンジシニア

平日 週2プラン 月額 8,800円
※1ヶ月最大8回まで

平日 フリープラン 月額 9,900円
※回数制限なし

お問い合わせはコチラまで
026-237-4127

【受付時間】月曜～土曜 11:00～17:00

60歳以上限定プラン

期間限定フェア情報

うるおい館

うるおい館

冬のあったか 健康フェア

2024 12/15(日)～2/28(金)

2025

レストラン期間限定メニュー

スンドゥブチゲ 880円

牛モツ鍋 980円